



第3章

プランの 検討状況報告

報告会	P166
予算化状況	P167
検討状況	P168
アドバイザー委員感想	P175

としまF1会議報告会

日時：平成27年2月12日(木) 18時00分～19時00分

場所：区役所本庁舎 第2委員会室

出席者：区長、副区長2名、委員21名、アドバイザー委員5名、区管理職13名

【内容】

としまF1会議から提案されたプランの予算化状況・検討状況について区がF1会議委員に報告した。



プランの予算化状況

1. 女性にやさしいまちづくり ① F1会議からの提案を形にしました

昨年5月、日本創成会議より2040年に20代から30代の女性が半減する「消滅可能性都市」との指摘を受け、当事者である若年女性たちの声を「女性にやさしいまちづくり」に反映させるため、キックオフイベント「としま100人女子会」を経て、「としまF1会議」を立ち上げました。

子育てからワークライフバランス、まちづくりから都市ブランディング、広報まで、12月11日に同会議から出された幅広い提案を受け、11の事業を具体化します。



子育てにやさしい新庁舎！子育てナビゲーター配置

新庁舎4階の会議室を改装し、子育て相談・情報スペース（子育てインフォメーション）を設置、妊娠・出産から子育てまで幅広い相談に応じ、適切な窓口・機関につなぐ「子育てナビゲーター」を配置します。

また、新庁舎移転により、現庁舎に隣接する保健所との距離が遠くなるため、新庁舎に保健所の出張窓口を設置し、新庁舎でも母子手帳の交付が受けられるようにします。キッズスペースや男性も使える授乳室など、既定の整備内容に加え、F1会議からの提案を反映することで、子育てにやさしい新庁舎をめざします。

子育てナビゲーターの配置【新規】1,418万円
健康推進課・地域保健課業務委託【拡充】2,719万円

働くこと、子育てすること、
ひとりひとりが輝く「サクラヌ」に！

ワークライフバランスの推進はまずは社長さんの意識改革から…
100人女子会ならぬ「100人社長会」を開催します。また、豊島の大人の女性をアピールする「サクラヌ」に因み、働く女性「サクラヌ-biz」を応援！女性起業家のための起業塾や交流会を実施します。



*「子育てインフォメーション」の整備イメージです

としま100人社長会開催【拡充】136万円
女性の暮らし支援出張講座【新規】26万円
女性のための起業支援【拡充】96万円 ほか

F1会議からの提案を形にしました（11事業 8,800万円）

事業名	新規・拡充	予算額 (千円)	事業概要	担当課長 (内線)
子育てナビゲーターの配置	新規	14,180	「新庁舎に子育て支援窓口・ナビゲーターの設置を」との提案を受け、会議室に予定していた一室を子育て相談スペースに改装し、妊娠期を含めた子育て期間中の相談に対応するとともに、必要に応じて関係課へ案内・斡旋する「子育てナビゲーター」を配置します。	子育て支援課長 (内2720)
健康推進課・地域保健課業務委託 (窓口受付)	拡充	27,193	「新庁舎と保健所との距離が遠くなることによる利便性低下を防ぐために、新庁舎でも母子手帳を交付できるように」との提案を受け、新庁舎に健康推進課・地域保健課の出張窓口を設置します。	健康推進課長 (内655-540)
子どもスキップ事業 (新一年生応援保育実施施設の増設)	拡充	501	保護者が安心して「仕事と子育てを両立できるまち」をめざすために、学童クラブ終了時間後の子どもの居場所づくりをとの提言を受け、小学校新一年生を対象とした延長保育「新一年生応援保育」を実施する学童クラブを現行4施設から8施設に倍増します。	子ども課長 (内2740)
池袋本町プレーパーク事業	拡充	2,163	「それぞれのニーズに合った理想の公園づくりの一環として児童遊園をミニプレーパークに」との提案を受け、自然や道具を使い工夫して遊びを作り出すことの出来る遊び場「プレーパーク」の役割の重要性を再認識しました。H27年度は、池袋本町公園で行われている「池袋本町プレーパーク」の開設時間及び曜日を拡充するとともに、出張プレーパークも実施します。	子ども課長 (内2740)
子育て支援公園施設整備等 モデル事業	新規	6,000	「住む・育てる・働くができる街のコミュニケーションの場としての公園」として理想の公園像が提案されました。中でも、具体的な改善提案のあった長崎公園(旧長崎三丁目児童遊園を含む)、長崎四丁目児童遊園について、今後ワークショップを開催し、改善策の実現をめざします。	公園緑地課長 (内2900)
としま100人社長会開催 (ワーク・ライフ・バランス推進事業)	拡充	1,362	WLBの実現には事業所のトップの意識改革が重要という発想から、区内事業所の社長参加によるWLBのワールド・カフェ「としま100人社長会」の実施が提案されました。H27年度は、この100人社長会を実現するとともに、さらにWLBの実態・ニーズを把握するためヒアリング調査も実施していきます。	男女平等推進 センター所長 (3980-7833)
女性の暮らし支援出張講座	新規	262	「子育て中も働きたい」という女性たちのために、空き家、空き店舗を利用した女性ワーキングサポート施設「さくらぼ」の設置をとの提案を受け、支援施設への講師等派遣や女性の暮らしや健康について出張講座を開催します。	男女平等推進 センター所長 (3980-7833)
女性のための起業支援 (サクラヌbiz(仮)の育成)	拡充	960	女性起業家の支援、また、桜ブランドの発信を目的とした「サクラヌ(仮)」という名称の活用という提案を受け、女性対象の起業塾や交流会を行い、豊島区の女性起業家「サクラヌ biz(仮)」を育成・輩出します。	生活産業課長 (内652-405)
ソメイヨシノプロジェクト推進事業	拡充	1,200	ソメイヨシノ発祥の地としてのブランドづくりの提案を受け、地域と協働で進めているソメイヨシノプロジェクトのさらなる推進を図ります。新入学児童へのさくら鉛筆の配布等を通じて、国内外へ発信していきます。	文化観光課長 (内650-2460)
リノベーションまちづくり事業	拡充	29,048	子育て世代向け住宅や子育て支援拠点としての「空家の活用」の提案を受け、空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	マンション担当課長 (内650-2840)
広報としま発行	拡充	5,176	「情報弱者のために読みやすく手に取ってもらえる広報紙」を、また、女性向けに雑誌サイズ版も検討をとの提案を受け、H27年度から、広報紙の発行形態やデザインを刷新し、読者に配慮した広報紙の作成を図っていきます。	広報課長 (内2130)

プランの検討状況

Community5

提案内容	担当課	検討状況	予算額 (千円)
1.相談窓口 ・女性の仕事と暮らしの相談窓口(CSW) 起業・就業・子育て・介護	マンション 担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	29,048
	男女平等 推進センター	空き家、空き店舗を利用した女性ワーキングサポート施設「さくらぼ」への講師派遣や出張講座を開催します。	262
	生活産業課	起業については、現在「としまビジサポ」で「企業・起業支援」を行っているため、としまビジサポを実施主体として、豊島区で起業する女性を「サクラヌBiz」として支援すべく、平成27年度は以下事業を実施します。 ①女性起業塾：としまビジサポにおける起業塾および「さくらぼ」への出張起業塾を開催します。 ②交流会：女性起業家や経営者の交流会を開催します。	960
2.就業支援 ・地元企業への紹介・ジョブカフェ ・ワークステーション：テレワーク支援・パートタイムなど短時間勤務希望の方への対応	マンション 担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	※29,048
	生活産業課	現在内職を除く就業支援事業については、ハローワークが主体となり、区は協力という形で行っています。ハローワークの求人情報収集ルートやその情報量を考慮すると、利用者の利便性・利益を高めるためには、区が主体で行うのは妥当ではないと考えます。	
3.女性のスキルUP・学びの場 ・オフィス・スペース(多目的) ・研修スペース・クラフトスペース ・ITスキル研修・モチベーション研修	マンション 担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	※29,048
	生活産業課	ITスキル・モチベーション研修の実施については、研修の要望が高い場合は予算提案が採択された女性起業塾や既存のセミナー等にメニューの1つとして盛り込むことを検討します。	
4.ファボ・ラボスペース ・3Dプリンター・レーザーカッターを利用 ・ものづくり (地元企業の試作品づくり、 子どものIT教室)	マンション 担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	※29,048
	生活産業課	○3Dプリンター・レーザーカッターについては、以下の理由により、豊島区が独自で当該施設を設置するのは効果的ではないと考えます。 ・製造業系の専門機器には様々な種類があり、高額かつ維持管理に高度な専門性が必要 ・豊島区は製造業が少なく、H24年時点では事業所数の内の5%に満たない。 ・専門機器の利用希望があった際は、豊島区とも事業連携している「東京都立産業技術研究センター」をご案内している。ここは多種の専門機器を備える大規模な施設。 ○ものづくりについては、当該施設の設置は困難と考えますが、子ども向けの体験教室は既に開催しています。 (メッセでの工芸体験や経済教室、夏休みに行う工場見学や親子工芸体験)	

提案内容	担当課	検討状況	予算額 (千円)
さくらキッズサロン (空き家の活用)	マンション 担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	※29,048
	生活産業課	豊島区内には民間のレンタルオフィスや空き店舗が存在するので、それらの活用という観点で検討していきます。	
	マンション 担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	※29,048
さくらハウス ファミリー世代と 高齢者世代の居住促進 (空き家の活用)	マンション 担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	※29,048
		2.多世代が集まれる場所づくり	
理想の公園	公園緑地課	地元や長崎公園のボランティア団体等と、どのような改修を行っていくか方向性を探るためのワークショップを開催します。	6,000
	子ども課	区内の公園・児童遊園において、年に数回、出張プレーパークを開催します。 ※予算額は、池袋本町プレーパークの拡充経費も含む	2,163

※印の予算額は再掲

さくらんぼ

提案内容	担当課	検討状況	予算額 (千円)
情報弱者への広報紙	広報課	豊島区広報イメージキャラクター「としま ななまる」を作成しています。	5,176
		重要政策や特集記事が中心の特集版(月1回発行)と、定型的なお知らせ記事やイベント情報が中心の情報版(月3回発行)に区分して、掲載情報を整理・精査し、読みやすく分かりやすい広報紙面の刷新を図ります。	
		年2回全戸配布する特集版について、A4・16頁の冊子判での発行を試行します。	
人の顔が見える 親しみやすい ホームページへ	広報課	新庁舎に移転後、各担当課へ相談窓口の様子等の画像掲載について、依頼予定です。	
		平成27年度予算化事業とはしていませんが、ホームページのさらなる充実のため、可能性を検討していきます。	
		平成27年度予算化事業とはしていませんが、ホームページのさらなる充実のため、可能性を検討していきます。	

人の顔が見える 親しみやすい ホームページへ	4.ホームページを見やすく改良	広報課	平成27年2月公開予定のホームページリニューアルで実現します。	
SNSの活用	FaceBookなどの活用		平成27年度予算化事業とはしていませんが、ホームページとの連動等、ホームページのさらなる充実のため、可能性を検討していきます。	
広報担当を頂点とした プレストの定例化	・各部で広報代表者を選定する。 ・毎月、各部の広報代表者が集まる場を設ける		27年度は手始めとして、広報紙に子育て支援ページを常設し、関連部署の担当者が集まって紙面づくりを企画・調整する会議を立ち上げます。順次、他の部署への拡大についても検討していきます。	

WLB

提案内容	担当課	検討状況	予算額 (千円)
としま100人社長会の開催	男女平等 推進センター	区内事業所の社長(経営者)、人事担当者を対象としてワーク・ライフ・バランスについてのワールド・カフェを開催するとともに、さらにWLBの実態・ニーズを把握するためヒアリング調査を実施します。	1,362
WLB相談窓口の設置	生活産業課	「としまビジサポ」にて、毎週水曜日午後企業や起業予定者に対し、社会保険労務士が無料相談に応じしています。	
WLBコンサルタントの無償派遣	生活産業課	「としまビジサポ」における社会保険労務士の無料相談の他、以下の制度を利用しています。 ①東京都中小企業振興公社の専門家派遣制度：公社に登録している専門家を8回まで派遣可能。専門家への謝礼が必要なので、公社と豊島区の補助金を利用した上で1回あたり1,500円程度の自己負担を伴うが、自身でコンサルを依頼するよりかなり安価である。 ②国が運営するミラサポの専門家派遣制度：国に登録している専門家を3回まで無料で派遣可能。	
制度に関するセミナー開催	男女平等 推進センター	現在、年に1回開催しているワーク・ライフ・バランスフォーラムの際に、WLBに関する新制度や制度改正等の情報も盛り込んだ内容にするよう検討していきます。	
WLB推進認定企業向け支援の拡充	男女平等 推進センター	施工能力審査型総合評価方式及びプロポーザル方式の業者選定における優遇制度を実施し、27年度からは指定管理者選定においても優遇される予定です。今後もWLB推進認定企業への支援制度を継続的に検討していきます。	
広報活動の充実	男女平等 推進センター	現在行っている、広報としま・ホームページ等での情報提供の他に、WLBアンケート調査(25年度実施)で回答があった企業などに対して個別にWLBに関する情報を提供することも検討中です。	

としまブランド刷新チーム

提案内容		担当課	検討状況	予算額 (千円)
「桜」のイメージを豊島区全体で増殖	さくら区宣言	企画課	国際アート・カルチャー都市づくりを推進していく中で、検討させていただきます。	
	豊島区の女性を「〇〇サクラヌ(仮)」と表現	企画課	女性のための起業支援(サクラヌBizの育成)として、一部の事業名に採用いたします。今後も都市ブランディングを推進する中で検討させていただきます。	
1地区1シンボルツリー	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎での「桜植樹」、屋上庭園での「桜」の展開 ・各地区(小学校区単位)で、1地区1シンボルツリーの植樹(既にある地域では、その保護活動を実施) ・家庭での「桜」植樹に、区が補助 ・ソメイヨシノが難しい場合は、まめ種の桜や芝桜などでの展開 	庁舎建設室	新庁舎では、旧日出小学校の桜の大木や、新たな桜の木が、他の樹木とのバランスも熟慮のうえ既に植えられています。追加の植樹のスペースはありませんが、新庁舎の桜をはじめとする素晴らしい緑を来庁される皆様が楽しめるようになっています。	
		文化観光課	「ソメイヨシノプロジェクト」において、区有施設(公園、小中学校)や交流都市への植樹は既存事業として実施中であり、引き続き実施予定です。	
		公園緑地課	家庭での「桜」植樹補助については、区内の一般家庭でのサクラの植樹は家屋や設備等に影響が大きく、また近隣とのトラブルを生じ、良好な状態での維持管理はできないと考えます。まめ種の桜、芝桜の展開については、ソメイヨシノが植栽できない規模の場所で芝桜を植栽してもアピール性がなく、継続的な維持管理も困難なため、事業化には不相当と考えます。	
SAKURAブランドロゴ作成と展開	1.SAKURAブランドロゴの作成 豊島区PRにつながる商品のパッケージやグッズなどには無償使用を許諾し、イメージの定着・拡散を図る	文化観光課	「ソメイヨシノプロジェクト」において、ソメイヨシノをモチーフにしたシンボルマークを活用し、ソメイヨシノ発祥の地をPRしています。	
	2.地元企業や商店街、大学と連携した商品開発	文化観光課	地元企業や商店街、大学と連携した商品開発については、実施に向けて検討していきます。	
	3.桜グッズ・桜フェアの募集や開催	文化観光課	27年度は新入学児童へのさくら鉛筆の配布を予算化しました。染井よしの桜の里駒込協議会が「さくらフォトコンテスト」「開花予想クイズ」「さくら祭り」を実施しています。	1,200
SAKURAポストの拡大	「桜ポスト」を豊島区全体へ配置	文化観光課	平成26年4月に初めてさくらポストを設置しました。郵便局と協議が必要です。	
区民で作るさくらマップ	区在住の生の情報を盛り込んで、多国語対応で“行きたくなる地図”を区民のクチコミで作成	文化観光課	染井よしの桜の里駒込協議会が毎年「桜物語(MAP)」を発行しているため、協議が必要となります。	
サクラポリスマン (安心・安全・清潔なまちの実現に向けて)	桜色のアイテムを身に着けて、駅前の警察官にもっと「出て」きてもらい、犯罪や事故の起こりにくい雰囲気も醸成	治安対策担当課長	警備会社警備員による安全安心パトロール隊に徒歩によるパトロール隊を増設し、駅周辺の客引き行為等防止に向けたパトロールを実施します。 桜色のアイテム着用については検討中です。	
サクラクリーン運動	“ごみゼロデー”路上喫煙・ポイ捨て防止キャンペーンにプラス桜のイメージを付加	環境課	新たに整備する喫煙所やキャンペーン等で使用する資材など、可能な場所に桜のイメージを取り入れていきたいと考えます。	
サクラ・アーティスト・イン・レジデンス	<ul style="list-style-type: none"> 「産業振興」「コミュニティ形成」の視点からの空き家活用 ・アーティストを招聘し、空き家を活用したアトリエやギャラリーを制作・滞在・交流の拠点に 	企画課	リノベーションまちづくりとの連携を図りながら、国際アート・カルチャー都市づくりを推進していく中で、検討させていただきます。	
		マンション担当課長	公民連携による空き家・空住戸、空き店舗等の活用策として検討します。	※29,048

提案内容		担当課	検討状況	予算額 (千円)
留学生ホームビジット 制度の拡充	・認知度の拡充、受入人数の拡大 ・積極的に国際交流をリード	文化観光課	一斉ホームビジットの開催を桜の開花時季に設定し、ホストファミリーと一緒に桜を見るような内容で設定するなど、今後検討したいと考えます。	
区内留学ステッカー& 卒業証書大作戦	・区内外国料理店に外国語使用大歓迎のステッカーを貼り、外国語学習中の日本人に、外国語を使用する機会の醸成 ・街中(豊島区内)留学を頑張った人に、区が「区内留学証書」を発行	企画課	国際アート・カルチャー都市づくりを推進していく中で、検討させていただきます。	
ママ&子ども交流会 サクラヌ(仮)	世界のママ&子どもたち集まれ!をコンセプトに区庁舎などで開催	企画課	国際アート・カルチャー都市づくりを推進していく中で、検討させていただきます。	
民族衣装でSAKURA フェスティバル	民族衣装フェスティバルの開催	文化観光課	桜祭りなどイベント時にアトラクションの一つとして取り入れられるか、地元協議会等と協議する必要があります。	

※印の予算額は再掲

チームとしまっ子

提案内容		担当課	検討状況	予算額 (千円)
地域コーディネーター (地域子どもコーディネーターつなぐさん)の 設置	1.「つなぐさんの」 人材探しと雇用	子ども課	平成27年度から、「子ども講座」の受講終了者を地域の子育て人材として活用する事業を開始します。活動希望者に「子ども支援サポーター」登録証を発行し、初めは区民ひろばや子ども家庭支援センターなどでボランティアとして活用し、登録者数や活動実績を踏まえ、今後の活動について検討していきます。	
	2.交流の場(区民ひろば)の整備	区民ひろば課	「地域区民ひろばの推進」事業のなかで、子育てひろばを展開し、子育て世代の交流を図っています。また、乳幼児から高齢者までの世代を超えた交流の場を創っています。	
ワールド・カフェの開催 (子育てとしまホット カフェ)	・年2回ワールド・カフェを開催 ・子育てに関する区民の意見を集め区政に反映 ・地域のつながりづくりとネットワークづくりの促進	企画課	これからの地域づくりにおいて、区民の皆様の区政参画と地域のネットワークづくりは重要な課題と考えています。ワールドカフェ方式も採用しながらテーマに応じて適宜、区民討議等の機会づくりを図ってまいります。	
まちかど食堂で朝ごはん (まちかど食堂・ おはようバナナ)	・1週間に1回程度、登校に合わせて実施 ・通学路で朝ごはんとしてバナナを提供することで、空腹の子どもを減らし、地域の人との会話を促進し、地域と子ども達のつながりを生み出す。	生活福祉課	朝食を欠いている児童・生徒の把握が困難な状況において、この事業については地域における『声掛け』による見守りの側面が強くなると考えられます。 まずは、実行委員会形式での自主的な活動が相応しいものと判断いたしました。モデル的に学校区などを定め、PTA等の理解を得たうえで、社会福祉協議会の『地域福祉活動費助成事業』などを活用してスタートしていただき、その実績を踏まえて区としての対応を検討したいと考えています。	
		教育指導課	学校・教育委員会では早寝・早起き・朝ごはんを各家庭に働きかけています。	
朝と夜の子どもの 居場所	1.登校前の児童の居場所をつくる ・7時15分からの早期保育 ・7時15分からの小学校開門	子ども課	児童クラブは、放課後の時間に児童の年齢にふさわしい自立を支援する場であり、早期保育の実施は考えておりません。	
		教育指導課	学校では始業・終業の時間が定められており、子どもたちの安全管理上、7時15分からの開門はできません。	

朝と夜の子どもの居場所	2.学童終了後の居場所をつくる ・学童預かり時間を19時00分に延長	子ども課	27年度は、新1年生に限り、夏休みまでの期間、19時まで預かる事業(新1年生応援保育)を実施する学童クラブを4施設増設します。 【新規】巢鴨、池袋、長崎、富士見台 【継続】仰高、清和、池袋第一、南池袋 28年度以降については、対象学年の拡大や通年での実施等、時間延長に対するニーズを調査・検討して決定していきます。	501
-------------	---------------------------------------	------	--	-----

ななまるねっとわーく

提案内容		担当課	検討状況	予算額 (千円)
子育て支援窓口・ナビゲーターの導入	新庁舎に、子育ての悩みを気楽に相談できる「子育て支援窓口さくらんぼ」と「子育てナビゲーター」を設置、導入	子育て支援課	新庁舎4階に子育てインフォメーションを設置するとともに子育てナビゲーターを配置し、子育てに関する相談にきめ細かく対応します。	14,180
子育て総合情報スペースの設置	1.新庁舎に、区内のイベント・各講座・子育てサークル等の情報を集約した子育て総合情報スペースの設置	子育て支援課	子育てナビゲーター配置に伴い、相談と情報提供のためのスペースとして新庁舎4階の6人用会議室を転用して整備します。 ※大型チャラックの設置や各講座、子育てサークル等の全てのチャラック配架は困難と考えています。	
	2.保育入園申請や再申請手続き、ファミリーサポートの申請・更新手続き、病後保育申請、区民ひろばなどの団体予約等のWEB手続き、予約システムの導入	区民ひろば課	区民ひろばは利用の要件を案内し、登録団体のメンバーや活動内容を正確に把握するため、窓口での利用登録を原則としています。 登録が完了すれば、併設の区民集會室や夜間の貸出については、施設予約システムをご利用いただけます。	
		保育園課	病後児保育事業の登録には、児童の既往歴・予防接種歴等非常に重要な個人情報を求めるため、個人情報をいかに守るかがWEB手続き導入の課題となります。 また、予約は保護者から病後児保育室に直接行うため、予約システムを導入した場合、予約状況の更新等は病後児保育室の業務になり、事業者の負担になってしまうため、調整が必要となります。	
親子サークル、イベント開催サポート	1.子育てナビゲーターが子育てイベント・講座の窓口にて、イベントを初めて企画するときのアドバイスや関係部署との調整。	子育て支援課	子育て支援ナビゲーターの所掌に盛り込み、イベント・講座の内容に応じて可能な範囲で対応します。 資金的なサポート等は今後の課題と考えています。	
	2.イベントの開催の際、新庁舎内に保育スペースを確保&保育士の斡旋	子育て支援課	イベント対応については、内容や規模に応じ、個別に支援するか、また支援内容について判断することが適当と考えています。	
さくらんぼ検診プラン	1.新庁舎での母子手帳の交付	健康推進課	新庁舎内に池袋保健所出張窓口を設置し、母子健康手帳の交付についても受付を行います。	27,193
	2.検診を土・日に実施	健康推進課	対象者の増加に伴い、乳幼児健診の実施回数の増、3歳児健診の診察医の増により対応を行ってきました。少人数での実施については、現状では困難なところがありますが、土日実施については、試行も含めて実施体制を検討してまいります。 保健師のスキルアップについては、現在も職場内研修等を行っていますが、研修内容を検討するなど今後更にレベルアップを図ります。	
	3.少人数でニーズに合わせた、希望者はゆっくり話ができる乳児健診制度			
	4.保健師のスキルアップ			

さくらんぼ保育プラン	新制度に対するわかりやすい説明会、ワークショップの開催	保育政策担当課長	ホームページに制度の説明を掲載し、子育て支援課入園グループ窓口で、新制度利用申請時に個々に説明を行っています。	
	3歳児の待機児童対策として区立幼稚園の活用 ・区立幼稚園3園を2年保育から3年保育にする ・預かり保育希望者には夏休みなど、長期休み中も保育を行う	学校運営課	対象園児を3歳児に広げることにつきましては、現時点では施設上の制約があり困難な状況です。幼稚園の長期休業期間に預り保育を実施することについては、保護者のニーズや幼稚園の運営体制を踏まえて検討していきます。	

合計 88,045

アドバイザー委員 感想

F1会議委員の皆さん、お疲れ様でした。

各部署への取材、先進事例の調査、そして提言内容の検討、資料の作成など、実に密度の濃い4か月間であったことと、拝察いたします。

本当にありがとうございました。

豊島区が消滅可能性都市とされて以来、区は急ピッチで対策の検討・実施に取り組んできましたが、中でも「としまF1会議」は、鳴り物入りでスタートした目玉事業であり、なんとしても成功させなければならない重要プロジェクトでした。会議にアドバイザーとして参加するに当たり、私が心掛けていたことはただ一つ。とにかく盛り上げ役に徹しよう、ということでした。

消滅可能性都市という豊島区の大ピンチに、敢然と立ち上がってくれた皆さんには、ぜひ胸を張って堂々と、区長や区の幹部職員に対して提言していただきたかった。

そして迎えた最終回での皆さんの発表は、実に素晴らしいものでした。

限られた時間の中ではあったけれども、皆さんの思いの詰まった立派な提言を聞いていて、まさに感無量で、何も言うことはありませんでした…。

区として、皆さんの提言を真正面から受け止めて、可能なものからスピード感を持って事業化する。皆さんにお約束した私たち区の仕事は、これからが本番です。

皆さんの熱意に負けないよう、しっかり頑張っていきます。

F1会議は終わりましたが、今後も機会あるごとに皆さんと連携していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。

企画課長 佐藤 和彦

7月19日のキックオフイベント「としま100人女子会」。当初は100人も集まってくれるだろうかと不安でしたが、当日、会場に続々集まってきてくださった方々の顔を見て、「これから何かが始まる」予感にワクワクしました。

そして、100人女子会の熱気そのままにスタートした「としまF1会議」。

8月から12月の区長提案までの4か月…委員の皆さんの議論に参加させていただいたことは、私にとっても、「次の一步を踏み出す」大きなきっかけになりました。

会議の中で発言された委員の方の印象に残る言葉があります。

「できないということを前提に考えないでほしい」…できないと思った瞬間に、思考停止に陥ってしまいがちな私たちに向けられた鋭い警鐘でした。

なぜできないのか、どうしたらできるのか、どこまでならできるのか…委員の方たちとの意見のストロークを通じ、私たちのありがたいな思考は揺さぶられました。

そうした中で、少しずつ相互に理解し合い、よりよい道を探っていく…そのプロセスこそが、この会議の一番の意義だったと思います。何よりも、当事者として、委員の皆さん自身が、自分たちに何ができるかという視点を大事にしてくれたこと。それは、跳ね返って、現状の改革に向けたエネルギーや勇気を私に与えてくれました。

皆さんの意見を形にするために、そのエネルギーと勇気を大切に使いしていきたいと思っております。これからが本番です！

委員の皆さん、そしてさくらんぼチームの皆さん、ありがとうございました。

そして、これからもよろしく！

広報課長 矢作 豊子

7月19日の「100人女子会」から、12月11日のプラン発表まで。女子会参加者の皆さん、F1会議委員の皆さん、本当にありがとうございました。

私は、事務局として皆さんと関わらせていただきました。女子会参加者から19名の方がF1会議委員に。豊島区のために立ち上がってくれる女性がこんなに大勢いることにとても勇気づけられました。

そして、女子会参加者を含む総勢32名によるF1会議のスタート。女子会からつながったF1会議は、萩原座長のデザインにより、6つのチームに分かれ、自分達で考え、調べ、具体的なプランを練り上げていきました。皆さんの活動に裏付けられたプランだったから、区もできることを考え、具体化・予算化できたと思います。本当にありがとうございました。

一方で、事務局として皆さんの活動を十分にサポートできなかったのではないかの思いもあります。様々なご意見をいただきました。「こんなに大変だと分かっていたら、委員にはならなかった」。家庭や仕事、地域での活動などがある中でのF1会議の活動でした。それでも、「12月までだから頑張れた」、「自分達で豊島区を変えられるチャンスだと思った」などの声をいただき、皆さんの豊島区への熱い思いを感じると同時に、私も一職員、一区民として豊島区の未来を考え創っていきたくて思いました。

これからもF1会議の委員の皆さんとは、様々な場面でつながっていきたくと思います。豊島区を魅力的なまちにするため、引き続きよろしく申し上げます。

男女平等推進センター所長 小椋 瑞穂

「F1会議には夢があります。」

平成26年5月8日の消滅可能性都市報道を受けて、豊島区には、新しいことを始めるチャンスが生まれました。そのひとつがF1会議、女性の意見を区政に反映させるための「場」です。

7月の100人女子会から数えれば6か月間、委員の方々(発案し提言する側)には課題の抽出力や子育て世代全体のニーズへの想像力が問われ、同時に、私たち(アドバイスし事業化を検討する側)には受容力と本気度が問われました。当初は、この手法自体に対する懐疑的な雰囲気や事業効果への疑問があったように思いますが、委員の皆様の熱意と努力、事務局の粘り強さと座長の熟練の舵取りによって、民学官の共同作業が予想を上回るレベルで行われたと感じています。

しかし、F1会議には、もっと大きな可能性があります。例えば、子育てに関わらず様々な年代・ライフスタイルの女性の意見を反映できる、男性のワークライフバランスにも関与できる、まちづくりにも積極的に関わっていける、等々。このような包容力の大きな社会は、すべての人にとって暮らしやすい社会となるでしょう。さらに、都心の人口稠密地域での新しいチャレンジは、都市部の人口減少対策のモデルとなり、「地方との共生」の推進力となる可能性を持っています。

F1会議には、全国の人口減少問題に貢献できる夢があります。

健康推進課長 尾本 由美子

F1会議からは、豊島区に住んだり、働いたりしている「生活者」の視点から、本当に多彩なアイデアをいただきました。中でも「さくら区に改名」などは、行政の側には無い発想として、新鮮な驚きでした。出席された皆さんが6つのチームにまとまり、それぞれが特色ある提案をされた発想力・意欲に感服です。

この会議を主導された萩原座長のお話し通り、区の職員や職場に直接接する事で、傍観者ではなく区の実際の状況を理解し、より良い「アイデア」が生まれる。実現可能な政策提言ができるワーキンググループとして、運営された座長の手腕もすばらしいと感じました。

個人的には、区内の公園に関する提案に興味深く伺いました。自分も子どもが小さい頃、副都心線に乗って、新宿御苑に行った事を懐かしく思い出しました。身近に裸足で走れる芝生の公園があるのも良い事ですが、電車や地下鉄に乗って知らない公園に行くのも、子どもは楽しそうでした。

どの自治体も、多種多様なニーズを全て実現する事は困難です。しかし、当事者である「生活者」と行政が共に知恵を出し合い、発想を転換しながら「より良いまち、住みやすいまち」を目指して行きたいと思っています。

長崎健康相談所長 松崎 恵

としF1会議委員の皆さん、8月から12月の区長への提案までの4か月、本当にお疲れ様でした。皆さんの真剣な、そして熱意のある取組みに改めて敬意を表します。

7月のキックオフイベント「としま100人女子会」からも大勢の方が参加され、萩原座長の進行のもと、とても有意義な会議となりました。

当初は、「行政への意見、要望に終始するのではないか」、また、「具体的な提案は困難ではないか」と危惧していましたが、そのような心配は全く必要ありませんでした。

短期間での、各チームにおいての現地確認や先進事例の調査、各部局へのヒアリング、提案内容の検討、資料作成など、限られた時間の中での活動はとても厳しいものだったと思います。日々多忙な仕事や育児、地域での活動を行いながら、区長への具体的な提案を成し遂げたことは、皆さんの豊島区に対する熱い思いや提案実現への「本気度」を、私たち行政に示していただいた形となりました。

今度は、私たちが、この「本気度」を皆さんにお見せる番です。

27年度には、F1会議の提案の中から数多くの事業が実施されます。皆さんの期待に応えられるよう全力で取り組んでいきますので、是非、注目しててください。また、皆さんからのご意見等もお待ちしております。今後も引き続きよろしく願いいたします。

子育て支援課長 猪飼 敏夫

